

給食だより



(毎月19日は食育の日)

●家族で一緒に読みましょう

令和7年度
1月号

氷見市立湖南小学校

あけましておめでとうございます

冬休みが終わり、いよいよ3学期が始まりました。昔から「一月往ぬる二月逃げる三月去る」といわれてきたように、年度末に向けて月日が流れるのを早く感じる時期です。風邪やインフルエンザ、ノロウィルスも流行していますので、体調管理にはより一層気を付けて、1日1日を大切に過ごしてほしいと思います。

今年はうま年!



うまいように野菜をたっぷり食べよう!



箸をうまく使いこなしてきれいに食べよう!



よく味わってうまいを感じよう!

お年玉はもちだった!?



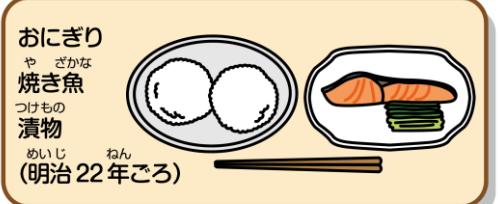
お正月は、普段より日本文化を感じる機会が多かったのではないか。さて、子供たちにとって、お正月の楽しみといえばお年玉。新年を祝って、大人から子供へお小遣いを渡す風習です。もともとは、お正月の「歳神様（年神様）」にお供えした「もち」を、歳神様からの贈り物として分け与えたことが始まりとされ、「年玉」とは「歳神様の魂」を意味します。



1/24～1/30は
「全国学校給食週間」です

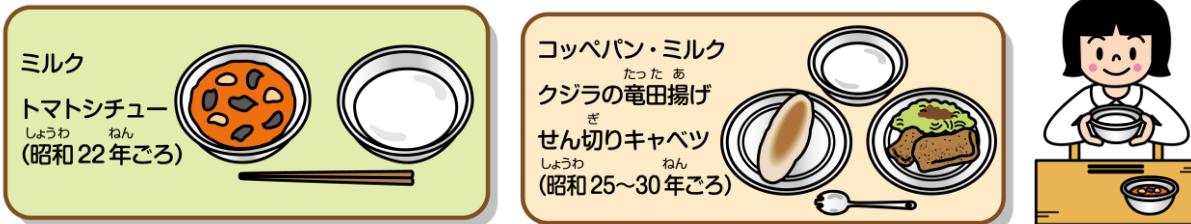
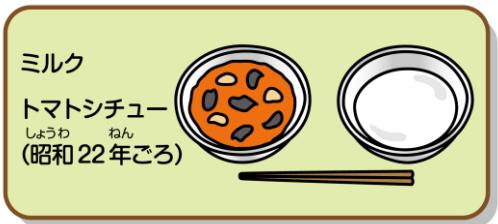
学校給食の始まり

明治22(1889)年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子供たちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大聖寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12(1923)年には、子供たちの栄養状態を改善するための方法として、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止されました。



支援物資による学校給食の再開

戦後、子供たちの栄養状態を心配する声が高まり、昭和21(1946)年12月24日にLARA(アジア救援公認団体)から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月から学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日から1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。



バラエティー豊かな献立内容に

昭和29(1954)年に「学校給食法」が成立したことで、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンを中心でしたが、昭和51年に米飯(ご飯)が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯等が登場し、献立内容が充実してきました。現在の学校給食は、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活ができるように、「教材」としての役割も担っています。

